

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1194800064		
法人名	医療法人 彩清会 清水病院		
事業所名	グループホーム 梅こよみ		
所在地	埼玉県秩父郡皆野町大字国神 854-6		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成25年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=119](http://x.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=119)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F		
訪問調査日	平成25年1月28日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは入居者さんにまだまだ出来る役割を一緒に探し共に助け合いながら生活しています。人から頼られることが生きがいに繋がると考え職員全員がパーソンセンタードケアを実施し、その人らしく自然な形で心のびと生活をして頂いています。  
退居されても、梅こよみで良かったと家族に言っていただける事に感謝し、利用者さんから学び得た認知症に関わる全てを介護力にし、それを新たに出会う方や地域に貢献するよう努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院付属のグループホームであるため、感染症対策、誤薬対策等医療に関することには特に気を配っている。事業所内での感染防止のため、手洗い、うがい、除菌を徹底する他、食器の消毒等の衛生管理も行っている。協力病院の往診が月1回あるが、具合が悪い時は24時間体制で適切な医療を受けられる体制を整えている。また、利用者が自分のリズムで生活し、その人らしい生活を継続できるよう、「パーソンセンタードケア」を実践しており、家族の協力を得ながら利用者の要望を把握し、利用者がいきいきできる機会を作っている。医療との連携が密なため、専門家のアドバイスに基づいた機能訓練を受けることもできる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定められた理念に沿った介護を実践し共有するよう、常に話し合いの場を持っている。	「その人」を中心としたケア、「パーソンセントラードケア」を実践するために、入職時に職員が守らなければならないルール6点を説明している。会議の中でも確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の中学生のボランティアに協力して貰い納涼祭、敬老会には地域の方を招き交流を図っています。	納涼祭、敬老会の時に、中学生のボランティアを受け入れたり、月1回の地域の清掃活動の時には利用者も住民の一員として活動に参加している。近所の方とは親しい関係であり、よく声をかけあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者さんとの散歩や外出時地域の方との会話を通じ認知症の理解や支援を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には新たに入居者さんの御家族2名に常時参加して頂き支援内容について意見を頂いています。その意見をサービス向上に活かしています。また、議事録は玄関に置き自由に閲覧出来るようになっている。	2ヶ月に1回定期的開催し、取り組みの相談、行事報告等を行っている。言葉での報告だけでなく、試食会を実施し、事業所内の様子を実際にみていただくことも行った。	参加メンバーは固定化しつつある。日程、内容等を工夫することで、多くの方々からの意見を得る機会が増し、さらにサービスが向上することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂き良いアドバイスを頂いたり、研修の案内なども直接届けて頂き最近の情報提供を行うなど担当職員との関係を築いています。	管理者が以前附属となっている病院で介護支援専門員であったこともあり、市の担当者と顔見知りの関係である。相談しやすく良い協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を作り勉強会を行っている。玄関は施錠せず行動を制限する行為のない様取り組んでいます。	職員全員で研修を行い、身体拘束について学んでいる。室内は自由に移動が可能であり、外に出たい時には職員が対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろん心理的虐待や不適切なケアについて常に話し合いの場を持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用された方が入居され職員も理解を深める事ができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時等、利用者や家族の不安などに適切なアドバイスや支援ができるようにして納得が得られるに対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時になるべく詳しく様子を報告し、意見、要望を求めている。遠距離でなかなか面会に出来ない家族にも電話手紙で様子を伝えている。また、運営推進会議には家族に参加して貰い感想、意見を頂いている。	面会が多く、直接話をする事が多い。直接言いにくいことも発言できるよう、該当レベルに○をつけるタイプの質問と自由に記述できる質問を記したアンケート用紙を目安箱の脇に用意している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、職員からの意見、提案は月一回のカンファレンスで話し合っている。	会議で話し合いをすることが多いが、様子をみながら個別に声をかけ相談の場を設けている。職員から積極的な意見が多く出るので、話し合いをし、ケアの実践に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営状況は半期ごとに説明したうえで職員への経営に関する意識付けを図っている。賞与、昇給には個々の実力が反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年5回行われる人材育成合同研修に自分で学びたいカリキュラムを選び全員が参加し伝達することで、より一層知識を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協会支部長さんとメルで交流を図り、他のグループホームを見学させて貰ったり、防災や権利擁護等の研修の案内を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ不安な要因について傾聴しゆくりと向き合う時間を持てるよう努力している。また、入居者さん同士の座席の配慮も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様が納得できるような説明に努めている。面会時以外でも臨機応変に電話も受け付け不安、要望を聞きケアに取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人や御家族の思いや状況を確認し、出来ないことに対し、改善に向けた提案等行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事への参加を働きかけ利用者同士や職員との関係も含み和やかな生活がおくれる関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベント等では家族にも協力して頂き、職員と共に作り上げることで本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパーに買い物に出かけたり生家までドライブに行く事もある。ご家族にも協力して貰い知人宅を訪れたり、またホームに来て頂く支援も行っている。	いつも行っていた食堂に外食しに行ったり、初詣にも出かけている。職員が手伝い、利用者が電話で家族の声を聞けるようにしている。行き付けの美容院に家族と行く利用者もおり、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聞いたり会話が弾み皆が楽しく過ごせるように時には仲介役になりコミュニケーションを図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も電話でその後の生活を伺ったり問題等あればいつでも相談にきて頂くよう支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がホームの日課に振り回された生活にならないよう、言葉や表情から意向の把握に努めています。	担当職員がおり、信頼関係を構築し利用者が意向等を表現しやすくなるように努めている。言葉だけでなく表情等からも意向の把握に努め、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族から時間をかけて沢山の情報を得るようにしている。また情報は職員全員で共有し経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人が望む事を優先し心身状態、体調に配慮しながらレクリエーション、リハビリに力を入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を設けることで利用者の細かな要望もケアプランに組み入れる事ができる。	会議にて細かく見直しをし、状態変化があった時には随時変更している。家族、本人、職員の意見を合わせ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録を職員全員で共有し、報告、連絡、相談を常に行っている。家族からの要望は申し送りノート利用し介護計画見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族が困った事は何でも相談できる関係を保っていくよう努めている。何かあれば、こちらからも連絡をとり家族と相談しながら解決している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣を散歩しながらオープンガーデンを見学させて貰ったり、リンゴ園にグループホームの樹を購入し毎年リンゴ狩りに出掛け自分で収穫することで心身の力を発揮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の要望を聞き主治医を同法人に変更し定期的な通院支援を行っている。また、他病院に通院のさいもバイタルの記録や状態の変化を伝えています。	月に1回付属病院の往診がある。家族と他病院に通院する時は、日々の状態がわかるように記録書類を用意している。24時間適切な医療を受けられるような体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに週2回正看護師が出勤しておりの確な指示を受け、また、必要があれば看護師が通院に付き添っています。夜勤帯に急変があれば直ぐに連絡がとれる体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には不調時記録やケア等の情報を医療機関に提供しています。法人相談員に入って頂き情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けたホームの方針を説明し理解を頂いている。	契約時に、重度化した場合の方針を説明している。状態を家族に報告しながら、相談を重ね、事業所としてできることを説明している。希望の病院に入院することも可能であり、利用者、家族の希望にそえるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の緊急時対応マニュアルを整備して周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム協会の防災ネットワークとの連絡を密にとり研修の案内を頂いている。また、夜間を想定した避難訓練のDVDをお借りし職員、入居者さんと一緒に勉強会をしている。	避難訓練は年2回行っている。夜間の対応に関してはDVDにて確認している。備蓄、暖房等災害に向けての準備をしている。	実際に夜間想定での訓練も行うことで、災害対策がさらに強化されることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを職員全員が考え、さりげない言葉かけや対応を心がけている。車椅子の方でも自分で閉められるようにトイレにはレールカーテンをつけプライバシーの確保に努めています。	羞恥心への配慮をし、トイレの中にカーテンをつけている。人格を尊重した言葉の選び方、声の調子に気を配っている。接遇についての研修を行い、「ちゃん付けをしない」等の標語を掲げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が答えやすく、選びやすい問いかけをして自分で決められるような場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムを大切に、意思、決定は入居者さんにしてもらうよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選ばれたファッションに対しては一声かけることで喜びを表してくれます。介助が必要な方には一緒に選びながらお洒落を楽しんでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんが畑で作った野菜と一緒に収穫し料理を考えて貰っています。一緒に作ったり片付けのみ参加されたり個々の能力に応じて出来る事を行っています。	利用者は、希望と能力に合わせ、職員と一緒に作ったり、夕食のメニューを考えている。月に1回順番に外食をし、その帰りにドライブを楽しんでいる。行事食や外でのバーベキューは楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎回記録として残している。必要があれば水分摂取も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声かけ見守りをし、出来ない方は毎食後うがいをお願いして口腔内チェックをしながら誤嚥による肺炎防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録等で確認しながら適切なトイレ誘導を行うことで、以前はオムツを使用していた方もリハパンでの対応が可能となった。	入居1週間は特にチェックを強化し、パターンの把握に努めている。時間、様子をみながら声かけをし、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。感染症予防のため、温水洗浄便座を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録等で排便管理は日常的に行っている。水分摂取や運動を取り入れおやつにはヨーグルト、牛乳を提供している。便秘時は看護師に腹部マッサージ施行してもらい浣腸は極力行わない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者さんの希望を伺い曜日、時間を決めている。自宅では毎日入っていたので、と希望される方にも出来る限りの対応をしています。	安全を考慮し、日中の時間帯は、希望の時間帯に入浴が可能である。一人ひとりゆとり時間をかけて入浴し、その間の会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	臥床しているのを好む方には自由に横になって頂いたり、良眠される様、日中の活動性にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルや処方箋のコピーを個々で分かるように整理し全員が閲覧できるようになっています。また、服薬の確認も記録に残しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、家事や編み物、習字、将棋等一人ひとりの力を発揮して達成感を感じて貰えるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々、入居者さん体調や希望などを確認し散歩に出掛けたり近隣のスーパーに買い物に出掛けている。また、家族と一緒に外出、外泊される事もある。月に一度は外食援助も行っています。	天候によるが、午後の散歩を日課としている。夜の外出希望があり、同法人デイケア、病棟との合同で居酒屋の雰囲気を楽しんだこともある。結婚式等に家族と外出する人も安心して出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の意向でお金を所持されている方には、御自分で買い物をし支払いをしてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される際には電話をかけて貰い、ご家族、知人からの電話を取り次ぎ会話を楽しんで頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さんが作られた作品を壁など目につく位置へ展示したり季節の花など飾り匂いや視覚で季節感を感じて頂くようにしています。	室温、湿度を管理し、部屋の乾燥を防止している。「住まい」をイメージしているため、子供っぽい飾りは避け、季節感を感じられるような物を飾るよう心掛けている。廊下に置かれたソファーでは、食堂から少し離れた空間で会話を楽しむ利用者の姿がみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファーや椅子を配置し気の合う入居者さん同士で会話を楽しんだり、思い思いに過ごせる様、安全面に気をつけながら見守りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分が愛用していた物や思い出の品、若い頃に作られた作品など家族と相談のもとで持ってきて頂いている方もあり、ご本人が居心地良く過ごせるよう支援している。	使い慣れたタンスや大切な写真を持ち込み、心地良く生活できるよう工夫している。生活習慣により、布団で寝ることも可能であり、天気の良い日には布団を天日干ししている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が混乱しないよう居室、入浴場、食堂等場所が分かるような工夫をしている。		